

研究員の眼

1月の投信爆買いの反動か？

～2025年2月の投信動向～

金融研究部 主任研究員 前山 裕亮

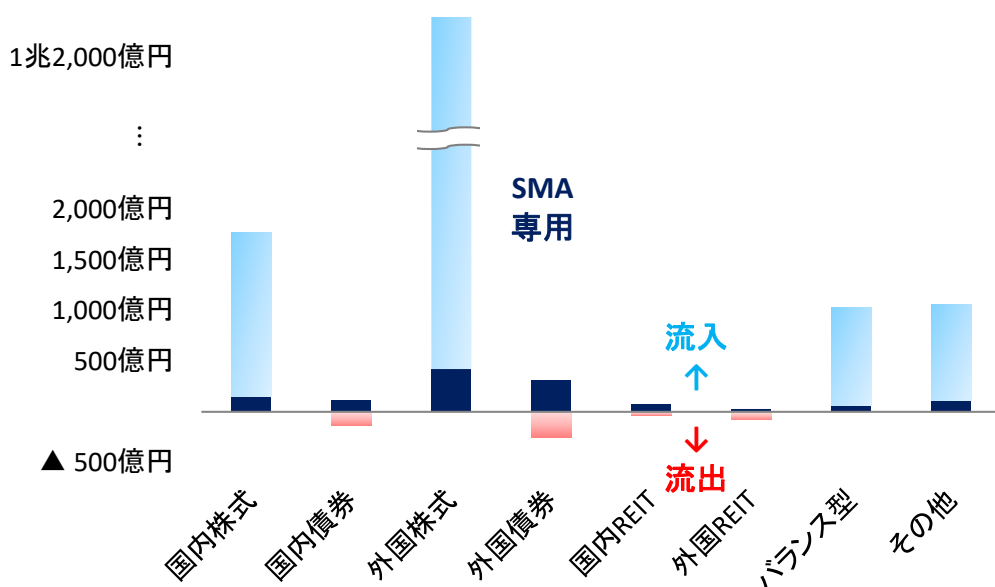
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式の資金流入が急減

2025年2月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、2月は外国株式ファンドに1兆2,400億円の資金流入があった【図表1】。外国株式ファンドは3カ月連続の1兆円超えの純流入となったが、過去最大だった1月の1兆9,700億円からは7,300億円減少した。

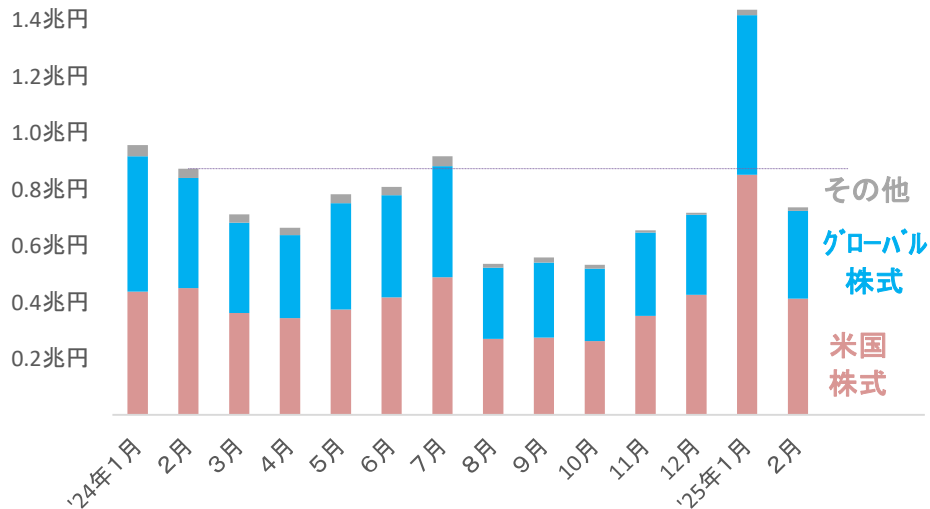
一般販売されている外国株式ファンドをタイプ別にみると、インデックス型で流入額が7,400億円と1月の1兆4,400億円からほぼ半減した【図表2】。インデックス型の米国株式ファンド（赤棒）、全世界や先進国のグローバル株式（青棒）ともに1月から急減した。特に米国株式ファンドの減少が顕著だった。

【図表1】2025年2月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



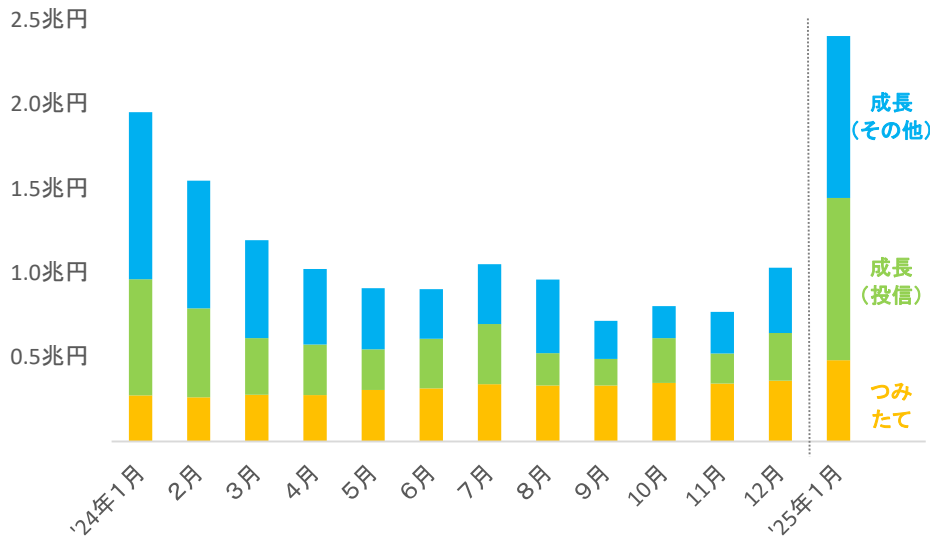
（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類などを用いてファンドを分類。

【図表2】インデックス型の外国株式ファンドの資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2025 年2月のみ推計値。

【図表3】証券 10 社の NISA 口座からの買付額



(資料) 日本証券業協会の資料より作成。

投資環境の影響か？

もともと1月はNISA口座、特に成長投資枠からの買付が膨らみ、インデックス型の外国株式ファンドの資金流入が急増していた。実際に証券10社のみの金額になるが、NISA口座から投信の買付が成長投資枠から1兆円程度あり、NISA口座全体からだと1.5兆円に迫っており、前年以上に投信の買付があった様子である【図表3】。NISA口座から投信の買付の大部分が、インデックス型の外国株式ファンドであったと思われる。

2月に成長投資枠からの買付が減少し、それに伴いインデックス型の外国株式ファンドの資金流入が鈍化したのは2024年と同じといえる。ただ、2025年は2024年と比べて1月に流入が大きかったが、2月の流入減少も大きく前年2月（【図表2】点線）を下回ったほどである。

【図表4】2025年2月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	1月の 流出入	2月の推計 純流入	純資産 2月末時点
1位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UAM	4,060億円	1,859億円	6兆6,179億円
2位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UAM	3,769億円	1,794億円	5兆3,943億円
3位	アライアンス・バースタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・B	1,053億円	956億円	3兆1,688億円
4位	野村マッコーリー・プライベート・インフラ・ファンド	野村AM	---	851億円	848億円
5位	インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ	546億円	724億円	1兆8,138億円
6位	フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D(毎月・予想分配・ヘッジ無)	フィデリティ投信	342億円	423億円	1,953億円
7位	日経225ノーロードオープン	AM-One	116億円	365億円	3,164億円
8位	iFreeNEXT FANG+インデックス	大和AM	1,100億円	332億円	5,042億円
9位	アライアンス・バースタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・B	406億円	316億円	1兆5,735億円
10位	楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド	楽天投信	601億円	294億円	4,688億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

2月は米国株式を中心に世界的に株価が下落し、外国為替市場では月初に1ドル155円台だったのが月末に150円を下回るまで円高が進行した。インデックス型問わず、外国株式投信の多くで基準価額が大きく下落した。そのような状況の中、インデックス型の外国株式投信の購入を控える人が多かったのかもしれない。

ただし、一般販売されているアクティブ型の外国株式ファンドは2月に4,600億円の資金流入があり、1月の5,000億円から鈍化したものの、インデックス型に比べるとかなり小幅な減少であった。個別にみても、2月新設を含むNISA非対象のアクティブ型の外国株式ファンド(赤字)の販売は比較的堅調だった様子である【図表4】。そのため、インデックス型の外国株式ファンドでは市場環境だけでなく、1月のNISA口座からの買付が2025年は特に大きかったため、その反動が2月以降にでているのかもしれない。

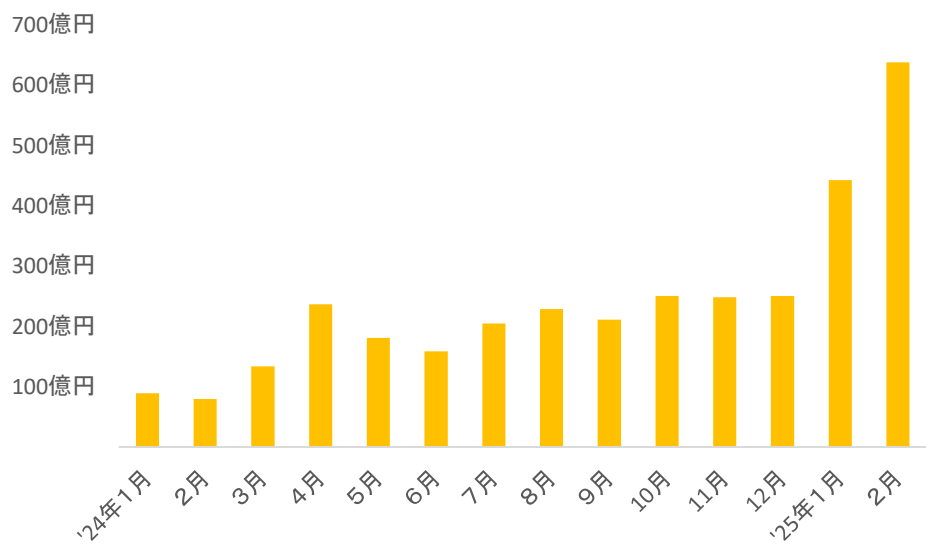
NISA口座の成長投資枠からの投信の買付額は、証券10社で2025年1月は2024年1月の1.4倍に達していた。証券10社のNISA口座自体は2025年1月末に1,640万と2024年1月末の1,355万から1.2倍となっており、投信の買付額は口座数以上に増えた。つみたて投資枠からの買付についても、2025年1月は4,800億円と2024年12月の3,600億円から急増していた。単純に切りよく新年から積立をスタートさせる人が多かっただけかもしれないが、つみたて投資枠の特性を考えると、やや違和感がある増加であった。

先月から筆者は指摘しているが、2025年は2024年以上に成長投資枠だけでなくつみたて投資枠もボーナス設定等を活用して年初から積極的に使う人が増えている可能性がある。2月はその分、鈍化が大きかったと考えられ、インデックス型の外国株式ファンドの販売動向はそれを裏付けるような結果であったといえよう。

金関連ファンドがじわじわ人気を集め出している

また、バランス型ファンドも1,000億円の資金流入があったが、1月の1,500億円から減少した。国内株式ファンドには1,800億円の資金流入があり、1月の500億円から増加した。しかし、日経平均株価が大きく下落する中、インデックス型を中心に逆張り投資の資金流入が大部分であったと推察される。一般販売されているアクティブ型の国内株式ファンドでは流出額こそ減少したが、2月も流出超過であった。

【図表5】金関連ファンドの資金流入



(資料) Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2025 年2月のみ推計値。

さらに外国債券ファンド、国内債券ファンド、外国REITファンド、国内REITファンドは一般販売されているものに限ると、引き続き流出超過であった。

このように2月はタイミング投資の影響を除くと、1月と比べて投信の販売が全体的に振るわなかったといえる。ただ、そのような中で金関連ファンド（【図表1】では「その他」に分類）の販売は堅調であった。2月に600億円の資金流入があるなど、金額こそ少額ではあるが2025年に入ってから増加基調が続いている【図表5】。先行きの不透明感が高まる中、金に注目する人が増えているのかもしれない。

中国株式ファンドが高パフォーマンス

1月は、中国株式の上昇を受けて中国株式ファンドが総じて高パフォーマンスだった【図表6】。なお、中国株式ファンドは2021年7月以降、流出超過が続いているが、2月も少額ではあるが流出していた。中国AI企業が注目される中、今後の中国株式ファンドの販売動向に変化があるのか、注目したい。

【図表6】2025 年2月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名		運用会社 (略称)	2月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 2月末時点
1位	iFreeNEXT ATMX+	大和AM	20.9 %	67.0 %	16 億円
2位	香港ハンセン指数ファンド	三井住友DS	13.7 %	47.9 %	22 億円
3位	HSBC 中国株式ファンド(3ヶ月決算型)	HSBC	12.6 %	31.0 %	40 億円
4位	HSBC チャイナ オープン	HSBC	12.5 %	31.0 %	98 億円
5位	アムンディ・中国株ファンド	アムンディ	12.2 %	37.2 %	15 億円
6位	DIAM中国関連株オープン	AM-One	12.0 %	37.7 %	21 億円
7位	チャイナ・リサーチ・オープン	三井住友トラスト	11.7 %	37.5 %	12 億円
8位	チャイナ・ロード	SBI岡三	11.3 %	34.2 %	17 億円
9位	アムンディ・グラン・チャイナ・ファンド	アムンディ	10.8 %	29.6 %	33 億円
10位	ダイワ・チャイナ・ファンド	大和AM	9.3 %	31.6 %	40 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2025 年2月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。
また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。